

Dr. Arthur Ario Lelono
Director of Talent Management, BRIN
(2026.4.23 Online Interview)



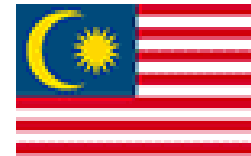
1. 日本との長年の関係はインドネシアの科学技術力向上に貢献

- BRINではサトリア新長官の下、研究者がコンフォートゾーンを越えて国際的に交流し、研究ネットワークを構築することが研究成果の質にもよい影響を与え、インドネシアの潜在的な研究力を引き出すためにも、二国間・多国間双方の国際連携を重視。
- 国際連携に係る旅費をBRINが支援できるようになり、インドネシア研究者の国際連携への意欲は高まっている。日本とは長年の信頼関係と制度的基盤によって研究者間の関係性や支援体制が成熟しており、これまでの高いレベルの協力に感謝する。NEXUS、e-ASIA、SATREPSといったプログラムは、インドネシアにおける研究の質向上、論文数の増加、研究者ネットワークの強化に貢献している。
- NEXUSのようなプログラムを通じた国際共同研究は、「信頼」関係の構築・強化に寄与し、更に研究者モビリティを組み込むことで、日本との長年の協力関係はより深化すると期待。今後NEXUSの継続・拡大によって、ASEAN地域の社会課題の解決に資するような研究が促進されれば、その成果は社会的インパクトをもってASEAN全域に広がると考える。

2. 社会実装を意識した共同研究にも期待

- プラボウォ大統領は、研究を実装・社会課題解決型志向へと転換する方針。現状、日本との連携は研究センターであるが、今後、特定の分野において産業界を組み込んだ「2+2（研究者+産業界）」モデルの導入も期待。
- 国際共同研究においては各相手国の強みに応じた分野で重複しない連携を心がけており、日本とは先端材料、先進エネルギー、宇宙衛星の運用といった分野で国際共同研究を実施したい。
- 日本には研究者交流プログラムの拡充も期待。特に日本の大学での長期滞在を必須としない短期交流・ハイブリッド型の共同指導等による柔軟な共同学位・研究スキームで博士人材の共同育成が実現できるとありがたい。

Mr. Loh Chia Hur
Senior Analyst, Academy of Sciences Malaysia
(2026.4.16 Online Interview)



1. NEXUSで“より深い”国際共同研究を実現

- 日本とは特に先端材料、バイオテクノロジー、水素といった分野で、インパクトの高い国際共同研究を実施したい。NEXUSは“より深い”国際共同研究を実現できる数少ない枠組み。
- NEXUS「グリーンテクノロジー」公募においては、128件もの応募があり驚いた。日本は言語の壁もあり、申請数は少ないのではと推測していた。以前からの交流が連携へと発展したのではないかと。研究者のニーズが非常に高いことが分かったので、第2回公募では採択課題数倍増(5→10件)を予定していた。(※マレーシア側予算の都合上、5件で公募準備中)
- 国際共同研究は単なる研究費ではなく、長期的な研究者ネットワーク形成の基盤となるもの。日本が主導するNEXUSやe-ASIAはそのためのプラットフォーム・ハブとなっている。

2. 日本は信頼できるパートナー

- 他国に比べ、日本は「信頼・一貫性・長期性」で突出。地域における日本のプレゼンスは非常に高い。日本は基本的な枠組みは提示しつつも、相手国に寄り添ってプログラムを設計している。(ヨーロッパは先方のルールを受け入れるか、連携しないかの二択。米国はまだマレーシアにおけるプレゼンスは高くない。中国は省庁レベルでは表敬訪問が多く、継続的な関与や実質的な連携が少ない)
- 日本とはこれまでの長きにわたる連携の実績があり、一貫性もあるのでコミュニケーションができる。公募も毎年実施されることが分かっているならば、予算要求も可能となる。覚書を締結するのは形式的なことで時間がかかるが、数回しか公募をしないのでは、かける労力に見合わない。長期的な関係を築きたい。
- 日本の研究エコシステムや構造的アプローチから学ぶことは多い。国際共同研究の支援期間だけにとどまらない継続的かつ長期的な関係を日本とは構築したい。

Engr. Niñaliza H. Escorial
Deputy Executive Director, PCIEERD, DOST
(2026.4.20 Online Interview)



1. 日本は長い友好関係に基づく相互補完的なパートナー

- ・ フィリピンにとって日本は単なる先進技術の供給国ではなく、長年にわたり友好関係を続けてきたパートナー。長年の関係性により、研究者同士が互いの強みや課題を深く理解し合い、効果的に連携できる点が他国との連携とは異なる。(例えば、約20年前に半導体パッケージング分野で日本から技術移転と指導を受けた。その成果として現在ではフィリピン国内にパッケージングR&Dディビジョンが確立されている。このような発展は、日本との長年の協力関係の延長線上にあるものであり、両国の信頼と継続的関与がもたらした具体的成果である。)
- ・ フィリピンでは先端技術によって社会変革を促す R&D プログラム“ELEV8PH”において重点分野を設定しているが、多くの重点分野で未だ人材育成・研究基盤構築の段階にあり、先進的な知見や制度設計を有する日本とのより深い協力を望んでいる。
- ・ 既存の信頼関係とネットワークを基盤に、NEXUS、e-ASIA等の継続・深化による長期的関係の強化とフィリピンのニーズに対する相互補完的な共同研究の拡大、また単なる人材育成ではない人材「循環」のと知識共有のエコシステムの形成を期待。(フィリピンでは「頭脳流出」問題に対し“Balik Scientist Program”プログラムで国外で研鑽を積んだフィリピン人研究者の帰国と、国内研究機関での任用を促進している。)

2. 模範的な存在である日本との更なる関係強化を期待

- ・ 日本は、技術・制度、ベストプラクティスの蓄積、ならびに研究から社会実装までを一気通貫する統合モデルを有する点で、他国(中国のインフラ輸出、欧米の技術単体支援等)と比較しても模範的存在。また社会課題解決につながる応用研究、データガバナンス・倫理、分野横断研究に強みがあり、社会受容・制度・応用のバランスがとれている。これはフィリピンの志向と親和性が高い。
- ・ 日本との連携は単発的な共同研究のみならず、政策レベルでの対話や国際的ネットワーク形成へと発展している。こうした広範な連携の基盤を築き、我々を幅広いコミュニティへとつないでくれたJSTに感謝。両国関係が単なるR&Dにとどまらない他分野への連携拡大、より強固な連携が研究にも更なるインパクトを与える好循環を生み出すことを期待している。

Dr. Jitti Mungkalasiri
Deputy director, Program Management, Unit-B
(2026.4.22 Online Interview)



1. 日本は重要なパートナーであり学ぶべき成功モデル

- 2026年4月に就任したヨッチャナン新副首相兼科学技術大臣は研究者出身(脳科学者、マヒドン大学研究担当副学長の経験有)であり、「科学は国家繁栄の根幹である」と明言。研究から産業化までを包含するイノベーション・エコシステムの構築や半導体、AI等を重要分野としてあげている。国際連携にも積極的であり、日本は連携強化を図るべき国の一つとの位置づけ。
- 戦後日本が科学技術・工学・産業を有機的に結び付け、産業主導で高いGDP成長を成し遂げたことは、タイにとって学ぶべき成功モデル。また、日本との共同研究は、タイの若手研究者にとって日本人の規律を重んじる姿勢や高い実行力を学ぶ貴重な機会でもある。

2. 共同研究・人材育成を通じた継続的な連携を期待

- 高市政権が掲げる17の戦略分野は国際的な課題でもあり、タイの重点分野とも高い親和性を有する。日本とは材料・半導体・エネルギー・バイオテクノロジーといった分野における協力を希望。日タイ双方の強みを生かした相互補完的な連携が可能と考える。
- 日本とは長きにわたる協力の実績があり、欧米諸国等と比較しても地域特性や文化への理解も深いことから、より具体的かつ実効性の高い連携が可能。
- NEXUSにおいては、国際共同研究のみならず、研究者のモビリティ促進や人材育成を一体で支援している点を高く評価。国際共同研究と人材育成を連動して支援しているのは、知る限り日本だけ。こうしたプログラムは小規模であっても研究者間の信頼関係を醸成する基盤となり、将来的にはより大きな連携や産業化へと発展する可能性を有している。
- 連携の基盤は「人」であり、ネットワークは一朝一夕に構築できるものではない。次世代を見据え、中長期的な視点で連携を継続することが重要。

Ms. Le Thi Viet Lam
Deputy Director General,
Department of International Cooperation,
Ministry of Science and Technology
(2026.5.15 Online Interview)



1. 日本は最も重要かつ信頼できる戦略的パートナー

- 日本は、高い科学技術力を有し、人材育成に対して実践的なアプローチを行う、ベトナムにとって**最も重要かつ信頼できる戦略的パートナー**。
- NEXUSやe-ASIAは、ベトナムの研究者に先進的な研究環境へ触れる機会を与え、若手研究者の共同研究・ネットワーキング能力の向上に寄与している点が特に有難い。ベトナム研究者からも高評価。
- ベトナムは半導体等の分野における質の高い人材の育成を最優先課題としている。NEXUS日越「半導体」国際共同研究において人材育成を共同研究に連動させる仕組みは、ベトナムの政策にも合致しており、JSTの取り組みに感謝。

2. 制度整備により日本との人材育成・研究者交流を強化

- 今後、日本との人材育成・研究者交流を深められるよう、教育訓練省（MOET）と共に制度面を整備することも考えたい。それにより日本の大学での博士号取得、研修、研究者交流、日本の企業等におけるインターンシップといったプログラムへ、ベトナムの若手研究者が応募しやすい環境を創出したい。
- NEXUS等によるベトナムと日本の協力のベストプラクティスを、ASEAN地域全体に広げていくことも重要。多国間ネットワークの強化、研究者モビリティの制度化、ベストプラクティス共有の仕組みづくり等を通じて、日ASEAN全体のイノベーションが促進されることを期待。